

(3) 市民を対象としたアンケート調査

「利用者は公園にどのような思いを抱いているのか」を把握するため、「市民を対象としたアンケート調査」を実施しました。

ア 市民を対象としたアンケート調査の概要

市民を対象としたアンケート調査は、中央公園「秋のグリーンフェア」への来場者(対象者790人)を対象に、「市民が公園に対しどのような意識を抱いているのか」、また、「どのような公園を望んでいるのか」を把握することを目的に、公園利用頻度、利用目的、利用促進方法、意見、要望などを調査しました。

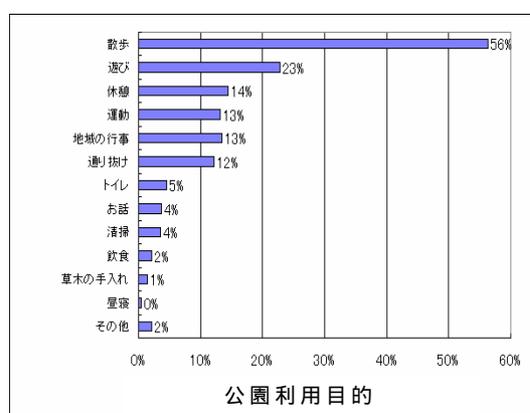
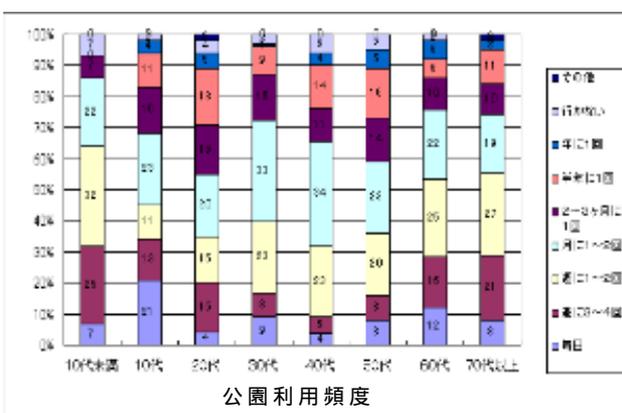
(調査日：平成12年(2000年)10月、11月)

イ 市民を対象としたアンケート調査の結果

結果は次のとおりです。

(ア) 公園の利用頻度

公園の利用頻度(週3~4回)は、地域で過ごす時間の多い子ども(10代未満)、高齢者(60代以上)の利用頻度が高く、仕事を持つ世代(20~50代)では、その頻度が低くなっています。



(イ) 公園の利用目的

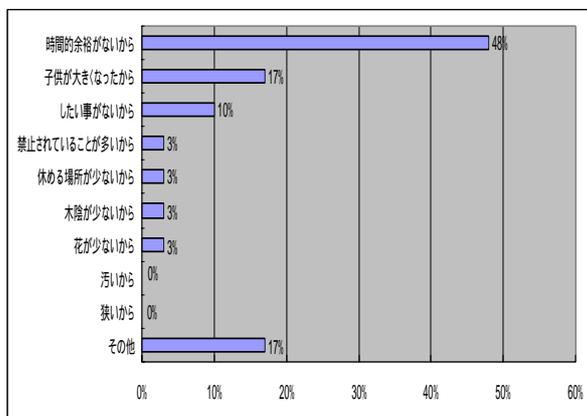
公園の利用目的は、散歩・休憩などの静的レクリエーション利用の割合が高く、次いで動的レクリエーションである遊び、運動、そして地域の行事の順となっています。

(ウ) 公園に行かない理由

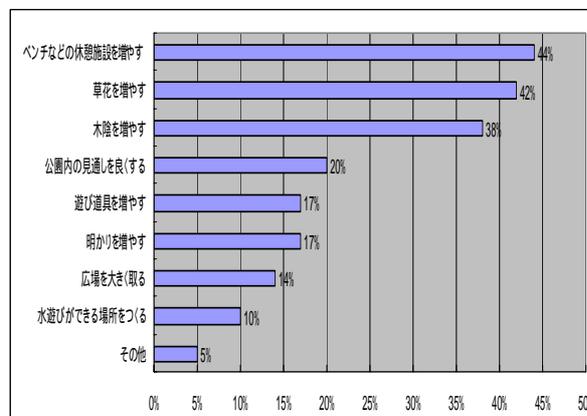
「時間的に余裕がない」「子どもが大きくなった」「したいことがない」が全体の約7割を占めています。残りの3割の人は、「木陰などの休める場所が少な

い」「花が少ない」などの休憩施設の不足、修景施設の魅力の低下や、「禁止されていることが多い」などの公園利用に対する規制を問題としています。

また、その他については、「近くに公園が無いから」という理由が大半を占めています。



公園に行かない理由



利用促進方法

(エ) 利用促進策

まず上位には、「ベンチなどの休憩施設を増やす」「草木を増やす」「木陰を増やす」といった休養系・修景施設があげられています(約4割)。次に、「公園内の見通しを良くする」「明かりをつける」といった防犯性をあげています(約2割)。そして、その次に「遊び道具を増やす」「広場を大きく取る」「水遊びのできる場所」といった遊び場に関する要望があがっています(約1.5割)。

(オ) 公園でしたいこと

内 容	人数	内 容	人数
リフレッシュ、のんびりする、くつろぐなどの休憩	137	花壇作り、清掃活動などのボランティア	24
散歩	132	友人や地域の人との交流	19
遊具、水遊び、木登りなどの遊び	112	読書	16
野球、サッカー、グランドゴルフなどの運動	104	イベントへの参加	5
樹木や草花の観賞	52	バードウォッチング	2
昼食を食べるなどのピクニック	27		

公園でしたいことは、「リフレッシュ、のんびりする、くつろぐなどの休憩」、「散歩」、「樹木や草花の観賞」、「読書」などに見られる静的レクリエーション利用に対する意見が多く、次いで、「遊具、水遊び、木登りなどの遊び」、「野球、サッカー、グランドゴルフなどの運動」などの動的レクリエーションに対する意見が多くなっています。また、友人や地域の人との交流や花壇づくり、清掃

活動などのボランティア参加などの意見も見られました。

ウ 市民を対象としたアンケート調査のまとめ

公園利用は、地域で過ごす時間が多い小学生以下の世代、高齢者の利用頻度が高く、仕事を持つ世代(20～50代)で、公園の利用頻度が低くなっています。

公園に行かない人は、時間的に余裕がないを含め、公園に関心を持っていない人が全体の約7割であり、残りの3割は、公園の魅力の低下(休憩・修景施設の不足、行政による管理規制など)を問題としています。

利用促進方法及び公園でしたいことから、市民が公園に求めるニーズは以下のようになります。

・ 休養・修景施設の魅力の向上

花や緑などの景色のいいところでの花や緑の観賞、リフレッシュ・くつろぐなどの休憩、散歩、読書など休養系利用に対するニーズが高くなっています。公園の魅力の向上としては、休養系利用のためのベンチなどの休憩施設を増やす、花や緑を増やす、木陰などを増やすなどの要望が高くなっています。

特に草花については、公園を彩る修景施設としてだけではなく、花壇づくりについてのニーズも伺えます。

・ 遊び場としての魅力の向上

子どもの意見が主となっています。遊び道具を増やす、広場を大きくとる、水遊びができるといったニーズが強くなっています。

・ 地域交流の場の創出

地域での交流、地域行事への参加などのニーズも伺えます。

・ 防犯など安心感の向上

公園に不安を感じる意見が多く見られ、防犯性の向上が求められています。